

学校保健にかかわる現状と課題

部長 圓山 文堯

1 学校保健の動向

社会環境や生活環境の急激な変化が子どもたちの心身の健康に大きな影響を与えており、性の逸脱行動、肥満などの生活習慣病の兆候などの現代的健康課題に加えて、児童虐待などのメンタルヘルスに関する課題や感染症、アレルギー・疾患などの課題が顕在化してきている。

このような児童生徒の健康にかかわる状況を改善するため、平成 20 年 1 月の中央教育審議会の答申や新潟県健康づくり指針「健康にいがた 21」の実行計画を踏まえ策定された「学校保健推進計画」を基に、組織的、計画的に健康づくりを推進することが求められている。

各学校においては上記の答申や「学校保健推進計画」を基に、達成に向けての目標を設定し、その達成に向けて、関係機関、県学校保健会、家庭及びPTA、地域などと連携し、一体となって取組を推進していく必要がある。

2 学校保健の課題（上・中・下越、新潟地区）

【上越地区】

健康 3 原則を実践できる児童の育成を目指した取組が、工夫改善されながら進められている。家庭、幼稚園・保育園との具体的な連携強化が課題である。

養護教諭の専門性を生かしつつ、学校、PTA、行政が連携し、組織的、計画的に健康教育を推進していく必要がある。

【中越地区】

教育研究協議会を母体に、県学校保健会の支部活動や県養護教諭連絡協議会の支部活動と連携を図りながら自主的、積極的に活動を行っている。会員のほとんどは養護教諭であるが、保健主事が所属している学校もある。

インフルエンザをはじめとするウィルス感染症の蔓延が心配され、また、生活習慣や衛生習慣の確立が求められている今日、学校保健の役割はより大きくなっている。

【下越地区】

県の研究組織の研究課題を受け、それぞれの地区で研究に取り組んでいる。今年度は下越地区合同研修会を開催し、女子栄養大学三木とみ子教授を招き「養護教諭が行う健康相談活動」という講演を基に研修を深めた。

養護教諭が健康教育のコーディネータとして、組織的な健康教育活動を展開している。その資質の向上と地域、関係機関との連携が今後の課題である。

【新潟市】

より良い生活習慣確立を求めて「生きる力をはぐくむ心と体の健康教育の充実を目指して」をテーマに、学校・地域・専門機関の連携をふまえた研究を展開している。学校保健安全法が施行となり、養護教諭に健康教育の推進推進に当たって中核的な役割が求められている。養護教諭の専門性や組織的な健康教育活動を一層深めていく必要がある。